

共同研究プロジェクト 企業の社会的責任の歴史的考察 〈中間報告〉

プロジェクト代表 大田 博 樹

これまでの企業経営は、利益の獲得が第一義的な目的とされてきたが、ESG投資が増加している事や2015年に国連サミットでSDGs（持続可能な開発目標）が採択されたこともあり、大企業などに対してより一層の社会的責任（CSR）を求める声が世界的に高まってきている。このような社会的責任に対して、企業経営と整合性をとるための理論的根拠については、その時代の価値観など社会情勢の影響を強く受けてきた。

本研究プロジェクトでは、企業経営と社会的責任を両立させる理論的な根拠について、歴史的な視点から整理し、社会的責任の本質について考察することを目的としている。研究調査期間は、2019年4月1日から3年間を予定している。

まず、2019年度は各メンバーが自身の研究テーマに沿った研究を進めるとともに、月に1回のペースで『ニコマコス倫理学』や『社会的世界の制作』、『明治に学ぶ企業倫理』など倫理を中心とした共通図書を決め、研究報告会を行なった。

また、9月1日・2日には、神奈川大学箱根保養所にて「日本におけるCSR概念の歴史」に関する情報交換を目的に調査研究会を開催した。その中で、下関市立大学の川野祐二教授を招聘し、「篤志家から企業フィランソロピーへ：日本の思想・CSR・企業財団の登場」を研究テーマに研究報告も行われた。川野氏の報告では、そもそも社会に貢献する人はいかな

る人々であるのか。なぜ、社会貢献をするのか。また、人生を費やして社会事業を行う人々の存在とは何か、という視点での考察が行われた。大物篤志家と実学思想家の影響が大きいという特徴があったが、戦後日本では、財閥解体により富が個人から企業へと移ることで、企業によるフィランソロピーやメセナが行われるようになったという歴史的経緯があった。

2020年度も引き続き、各メンバーが自身の研究テーマに沿った研究を進めることとした。研究報告会については、コロナの感染防止のため、しばらくのあいだ開催はできなかったが、6月よりzoomを使った研究報告会を開始し、月に1回ないし2回のペースで開催している。

9月11日には、昨年に引き続き下関市立大学の川野祐二教授を招聘し、「社会事業の無駄打ち問題—行政と企業にみるNPO設立とCSRの陥穽—」をテーマに研究報告会を行なった。

これからの企業経営にとって、ESG投資やSDGsなど企業環境が大きく変化している中で、社会的課題を解決しながら成長していくような経営戦略を立てていく必要があると言える。

このような認識のもと、本研究プロジェクトの効果として、企業経営と社会的責任の目的を定義し、歴史的変遷と理論的根拠について考察することで、現代企業における企業理念の考え方や経営戦略を再考し、今後の成長戦略に必要な概念を提供することが可能となることが期待される。